



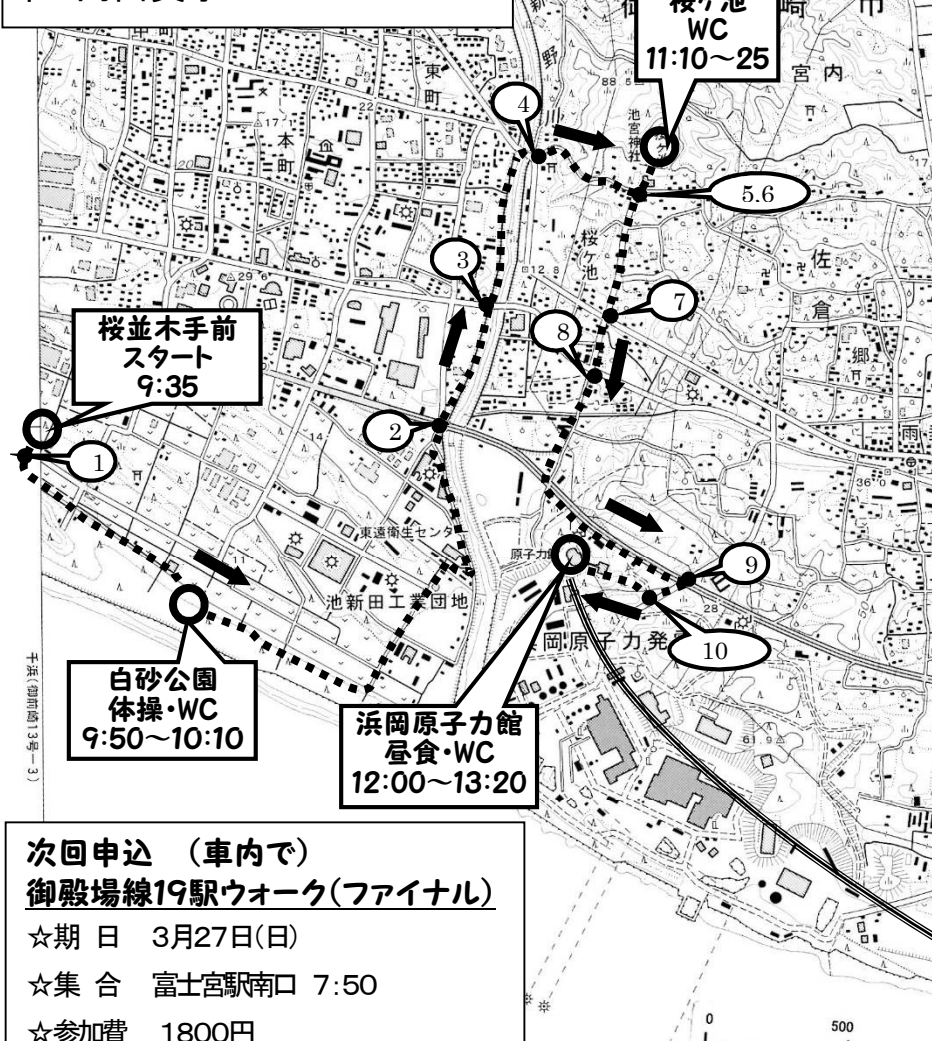
御前崎・花と海・洋上の世界遺産ウォーク

2016.03.06 12km ゆったり 9km

緊急時連絡

宇佐美武幸 090-7025-9607

木ノ内由美子 090-8861-0204



次回申込（車内で）
御殿場線19駅ウォーク(ファイナル)
☆期 日 3月27日(日)
☆集 合 富士宮駅南口 7:50
☆参加費 1800円
☆ペ 切 3月22日(火)

コース
往路(バス) 富士宮駅南口＝富士IC＝牧之原SA(WC)＝相良牧之原IC＝R473bp/R150bp
7:30 8:40～55
＝桜並木手前
9:35
ウォーク 桜並木手前(スタート)・・・白砂公園(WC／体操)・・・桜ヶ池(WC)・・・浜岡原子力館(昼食・見学WC)
9:35 9:50～10:10 11:10～25 12:00～13:20
＝バス＝御前崎中央公園先・・・御前崎灯台(周辺散策・ゴール・WC)
13:35 14:45～15:10
* ゆったり: 午後はバスで灯台まで行き、周辺散策。
復路(バス) 御前崎灯台＝海鮮なぶら市場/マリンパーク御前崎(洋上の世界遺産/WC・ショッピング)
15:10 15:15～16:15(富士山が見える場合のみマリンパークの「海のテラス」に行く)
＝R150bp/R473bp＝相良牧之原IC＝富士IC＝富士宮駅南口
17:45

参加者の皆様へ

- ・ 無断で単独行動をとらないようにしてください。
- ・ 主催者は、歩行中の事故について傷害保険に加入している他は応急措置以外の責任は負いません。
- ・ スタート前には必ずトイレを済ませてください。
- ・ 原則として右側通行を遵守し、2列以内で歩きましょう。
- ・ 一般道を横切の場合は、役員の指示に従ってください。
- ・ 体調が悪くなったら遠慮せずに役員に連絡願います。

コースの概要

230本の河津桜が咲く遊歩道がスタートです。約600m歩くと、**白砂公園**に到着、ここでトイレと体操を済ませて**浜岡砂丘**を散策します。自然が砂に描く風紋をお楽しみください。散策後は防風林沿いの遊歩道を歩き、新野川(にいのがわ)に出て、川沿いの道を**桜ヶ池**に向かいます。養豚場のわきを通るため臭気がありますが、我慢、我慢。**桜ヶ池**は東西北を原生林に囲まれた神秘的な池です。しばらく散策した後、中部電力の**浜岡原発**に隣接する**原子力館**に行き、ここで昼食です。十分な時間をとりますので、館内の見学や展望台での眺望を楽しみましょう。昼食後はバスで**御前崎中央公園**付近まで行き、ここから午後のスタートです。この辺りは遠州の空っ風で知られる強い西風による風害に悩まされており、そのために畑のあぜ道に藁を立てたり、麦を植えたりして風よけをしています。富士や富士宮では見られない光景です。しばらく一般道を歩いた後、海沿いの細い遊歩道を歩いて**御前崎の灯台**に到着です。ゆったりコースはバスに乗ったまま灯台に行き、周辺を散策します。灯台や隣接する資料館に入るためには200円の入場料が必要です(個人負担)。当初は全員入場の予定でしたが、灯台に登る階段が狭くてやや危険なことと、多くの人が同時に入ることが困難なため、自由入場としました。灯台見学後は階段を下りて海辺の駐車場に集合し、バスで**海鮮なぶら市場**に行き、天気の良い場合はマリンパークの海のテラスで駿河湾に浮かぶ**富士山(洋上の世界遺産)**を見た後、ショッピングをお楽しみいただきます。

御前崎灯台

静岡県御前崎市御前崎の最南端に立つ、白亜の塔形をしたレンガ造の大型灯台。日本の灯台50選に選ばれているほか、歴史的・文化的価値の高さから、A ランクの保存灯台に指定されている。1874年、イギリス人技師の監督のもとに誕生した。百三十余年という長い時を、烈風や地震等の被害にも屈せず、美しい姿を保ちながら海の安全を見守っている。ぐるぐる廻らせん階段から、眼下に大海原が広がる。天気が良ければ、伊豆半島、富士山、南アルプス、遠州灘と360° 静岡を体感できる。「御前崎」に設置されているが、**灯台名は「御前崎」である**



海鮮なぶら市場の「なぶら」って何?

「なぶら」とは、かつおの群れ(魚群)の意味。地元では遠州弁と思っている人が多いが、東北から九州まで、かつお漁が行われる漁村で、漁師の符牒として用いられている言葉である。3人寄れば文殊の智慧がわくように、小さな村の企業でもなぶら(むれ)になれば大きな夢が叶うということから名付けられた。「なぶら」は「なむら」ともいい、「な」は「いさな(勇魚・鯨)」の「な」である。

浜岡砂丘

遠州灘に広がる長大な浜岡砂丘は、太平洋側最大級の砂丘地帯である。天竜川から流出する土砂が沿岸潮流にのり、「遠州の空っ風」と呼ばれる強い西風によって内陸に運ばれて形成されたものである。昔は砂のまちといえるほど砂の被害が多く、西風が吹く度に飛砂による風下の集落や畑地の埋没があったが、浜岡砂丘の本体の大規模な固定事業が明治の頃行われた。海岸沿いには極めて移動性の高い、15～20メートル位の高さの砂丘が海岸線と直角方向に並んでいたため、飛砂による被害が多く、そこで「人工斜め砂丘」と呼ばれる方法がとられた。斜め45度に「堆砂垣」を立て西風をあて風力が衰えた砂が垣の根に堆積してゆく。砂丘に吹きつける地表の砂風は、この人工斜め砂丘に導かれ大きく方向を変え、海岸の方へ進む。これで既耕地へ侵入することがなくなった。現在の人工斜め砂丘は、浜岡砂丘独自の景観であり、風というエネルギーを巧みに利用した自然改造によるもので、全国でも希である。

桜ヶ池

標高四十メートル、小高い山の上にある桜ヶ池は、東西北の三方を原生林に囲まれ、深い緑色の水をたたえる神秘的な池。二万年前、丘陵の谷を砂がせきとめ、そこに涌いた水が池となり、満々の水を張る。比叡山の名僧皇円阿闍梨は、末法思想を憂い、世の中の人々を救済するため自ら悟りをひらこうと考え、難行苦行を重ねた。しかし、仏法をきわめることは非常に困難であった。そして、人々を悩みから救うには56億7千万年後に出現するという弥勒菩薩に直接教えをいただく以外に方法がないと考えた。ところが、人間の寿命ではこの願いはとうてい叶わない。そこで平安末期、嘉応元年(1169年)6月13日、阿闍梨はどうとう龍に姿を変えて桜ヶ池の底深く沈んだと伝えられている。池のほとりにある池宮神社では、秋の彼岸の中日(9/23頃)に「桜ヶ池のお櫃納め」が行われる。十数人のフンドシの若者が赤飯の入ったお櫃を水面に片手で立ち泳ぎして、池の中央で沈めるという奇祭で静岡県の無形民俗文化財になっている。「お櫃納め」は龍に赤飯を供え、五穀豊穡、心願成就を願う800年以上続く祭りである。空になったお櫃が3～7日で浮かんでくると、龍神に願いが届いたとされる。遠州七不思議の一つに数えられる。